心理学研究科臨床心理学専攻

1　アドミッションポリシー

入学にあたり、本研究科での教育を受けるにふさわしい、次のような能力と適性を備えた人材を選抜する。

①人の心に対する深い関心と洞察力を持つ人物。
②柔軟で安定した対人関係を築くことができる人物。
③臨床心理学領域での専門的職業人を目ざす意欲と能力を持った人物。
④心理学の発展に貢献するために主体的に研究に取り組む意欲と能力を持った人物。

2　カリキュラムポリシー

心理学研究科は、心理学の広範かつ高度な学識に基づき、臨床心理面接および心理アセスメントに関する実践的スキルを修得した心理臨床家の育成を目指す。こうした人材の育成およびディプロマポリシーの総合的な達成を図る教育課程として、下記の科目（群）を体系的に編成している。

(1) コースワーク
①「発達心理学特論」、「社会心理学特論」など心理学専門科目
②「心理療法特論」、「認知行動療法特論」など心理療法関連科目
③「臨床心理査定演習」など心理アセスメント関連科目
④「臨床心理基礎実習」、「臨床心理実習」など臨床心理面接の実習科目

(2) リサーチワーク
①「心理学研究法特論」、「心理統計法特論」など研究関連科目
②研究指導、修士論文作成指導の「心理学演習」

コースワークは、「臨床心理基礎実習」（1 年次）および「臨床心理実習」（2 年次）の実りある学修へ向けて約 20 科目を体系的・組織的に配置している。実施にあたり、多くの科目（群）では、附属のカウンセリングセンターや学外臨床施設での実習と連接することで、ディスカッション等を通した実習体験の多角的検討と理解の促進が可能となっている。

リサーチワークは、「心理学研究法特論」、「心理統計法特論」、「心理学演習Ⅰ～Ⅳ」等の科目によって構成されている。研究指導に関する授業では、教育効果を鑑みて 1・2 年次合同で実施している。

なお、本研究科の教育課程は、公益財団法人日本臨床心理士資格認定協会の「臨床心理士」受験資格取得の条件を満たしている。

3　ディプロマポリシー

以下の能力を備えている者に修士（心理学）の学位を授与する。

①臨床心理面接や臨床心理査定に関する理論とスキルを身につけて、それを実践へ移すことができる。
②臨床心理学の高度な学識に基づいた柔軟な理解・判断能力を身につけている。
③臨床心理学の近接関連領域にたいする持続的な関心と理解力を備えている。
④豊かな人間性と、対人援助における倫理観を身につけている。
⑤論理的思考能力をもって独創的な成果を研究論文としてまとめる能力を有している。

修了の要件は、本研究科に 2 年以上在学し、必修科目 24 単位および選択必修科目 10 単位以上、計 34 単位以上を修得し、かつ学位論文（修士論文）審査および最終試験に合格することである。